




明晰夢の廃墟



私が気が付くと
そこは
見知らぬ廃墟
だった・
・
・


どうやら元は病院
だったようだが・
荒れ果てていて
見る影もない

それにしても
ここは何処なのだろう
何故私はここに
いるのだろうか・
・

ふと、足元に
クシヤクシヤの
メモ書きが
落ちていたの
を見つけた。

・・・これは夢？
ということ
ここは夢の世界なのか？
それにしても妙に
リアルだが・・・


これは夢だ
早く目覚めろ

A dark, narrow hallway with debris on the floor and a person in the distance. The walls are textured and the ceiling is uneven. The lighting is dim, creating a somber and mysterious atmosphere.

そういえば昔
本で「明晰夢」
というのを読んだ


睡眠中であるにもかかわらず
意識がハッキリとしており
夢の中を自由に行動できる
というタイプの夢だ・・・

これが
そうなのか・・・



私は夢の中を
探検している
病室らしき部屋で
寝ている女性を
見つけた・・

患者なのだろうか
包帯を巻かれた
女性に死んだよう
ピクリとも動かない



「大丈夫ですか？」
私は声をかけるが
反応はない・・・」

動かないので
心配になったが
よく考えれば
ここは私の夢の
世界・私の夢の
この女性も私が
作られた幻想
なのだ・・・

そう思うと、
ふっとムラムラ
する気持ち
が湧き上がってきた



そうだ・
夢の世界では
どんな事をして
もいいのだ・
例えはこの
女性を・

「ズツ・・」
私は女性の下着を
おろし始めた・・




この患者は
私が触れても
ピクリとも反応
しない・
私はそのまま
下着をズルズルと
脱がしていき・



「スルリ・」
下着を完全に
脱がせると
女性患者の
陰部が露わになった

幻想の女性なのに
本物の女性と
なんら変わりない
体つきだ・・





その豊満な体が
私の性欲をますます
駆り立てた・・・

私の欲求不満が
夢にまで現れたの
だろうか
ならば、この夢の
世界で
思う存分、その欲
求を
発散しようでは
ないか

「クチュユ・・・」
私は女性の
陰部に触れてみた



その中は
温かく・濡れて
しとどに濡れて
指を動かすと
艶めかしい音を
立てた・




私はたまらなくなり
今度は女性の
胸の包帯を
ずらした・・・




すると豊満で
美しい乳房が
ブルンツと
露わになる・
・






なんて大きい胸だ・
私は思わず手を伸ばす
想像以上の柔らかさだ




揉みしだくと
プルンプルンと
たまらない感触が
私の理性を崩していく
もう我慢できない・・・



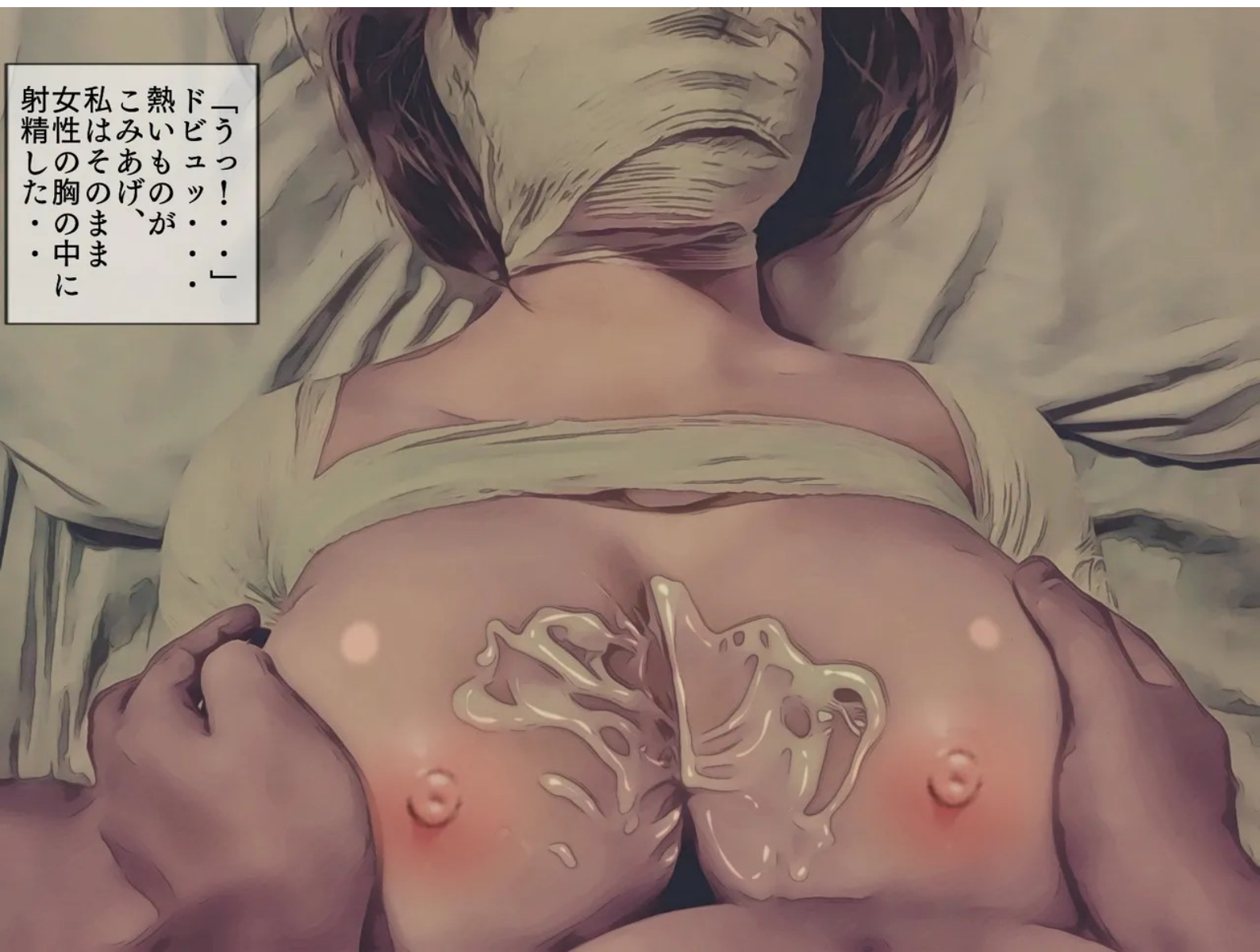
「ギユム・・」
私は思わず
自分のイチモツを
その柔らかい胸に
挟みこんだ

そして
そのまま腰を振り
擦り付ける・
たまらない弾力と
感触が私のアソコを
包み込んだ



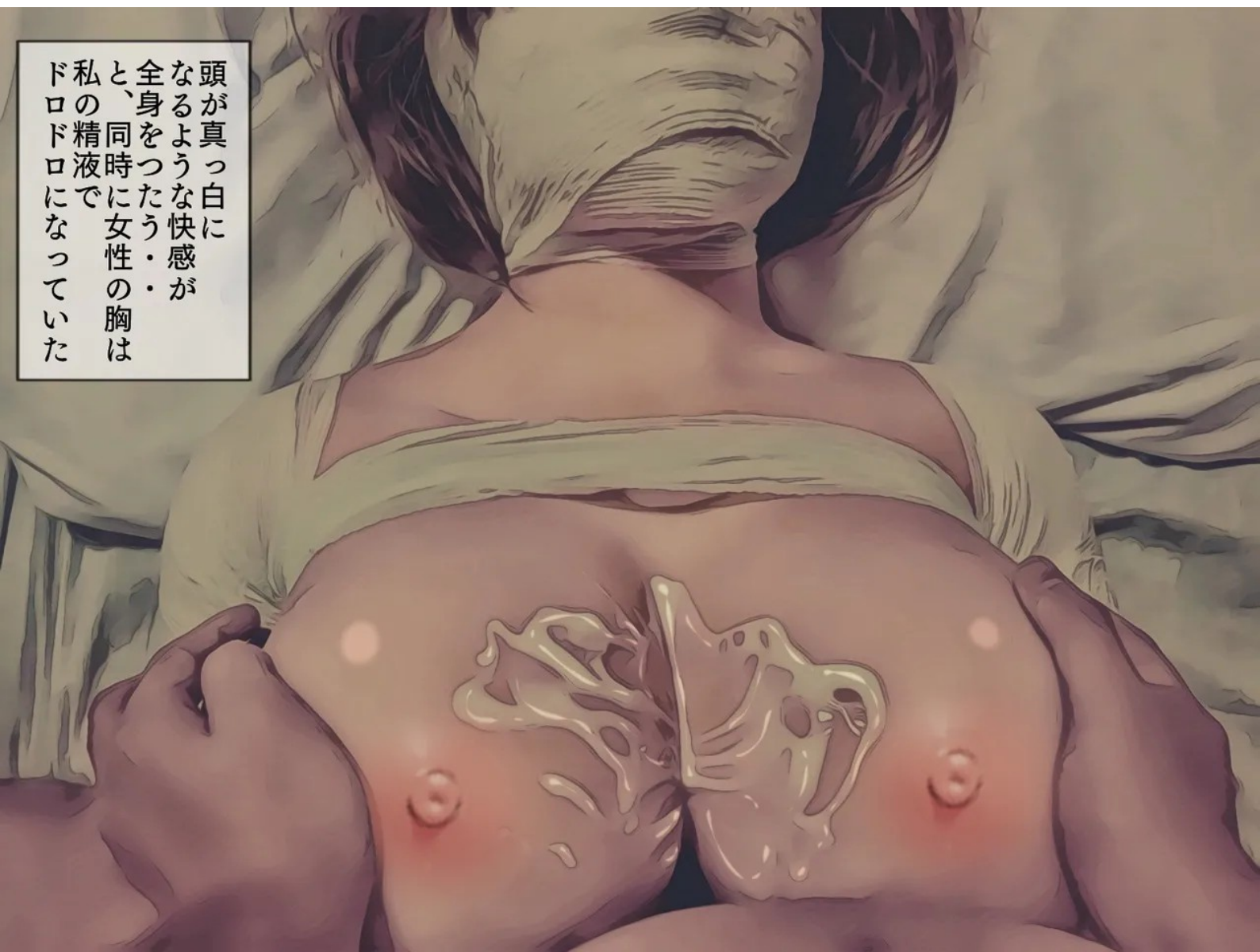


あぁっ 凄い・・・
凄いはその快感に
私はその快感に
無我夢中で腰を
振り続ける・・・
そして・・・

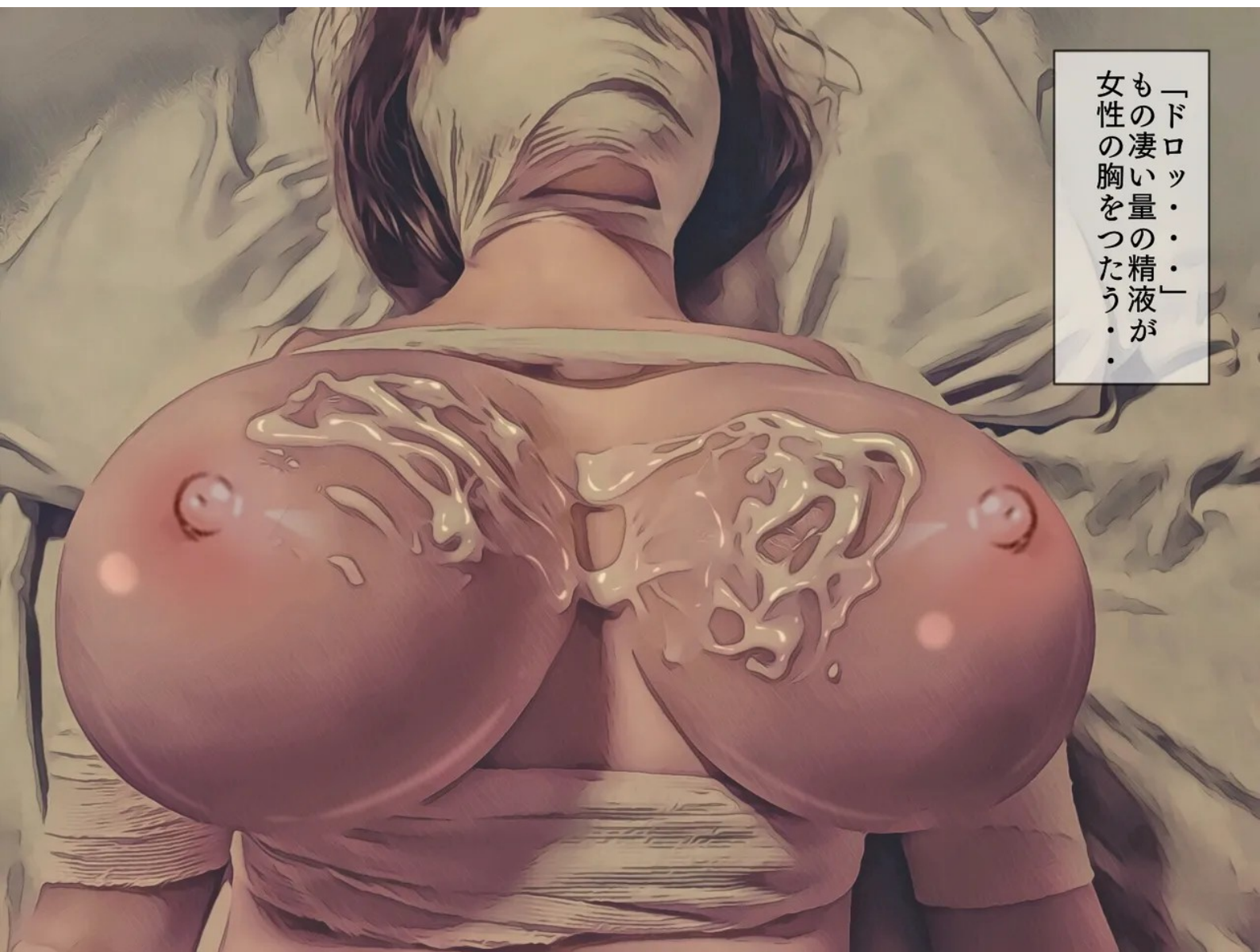


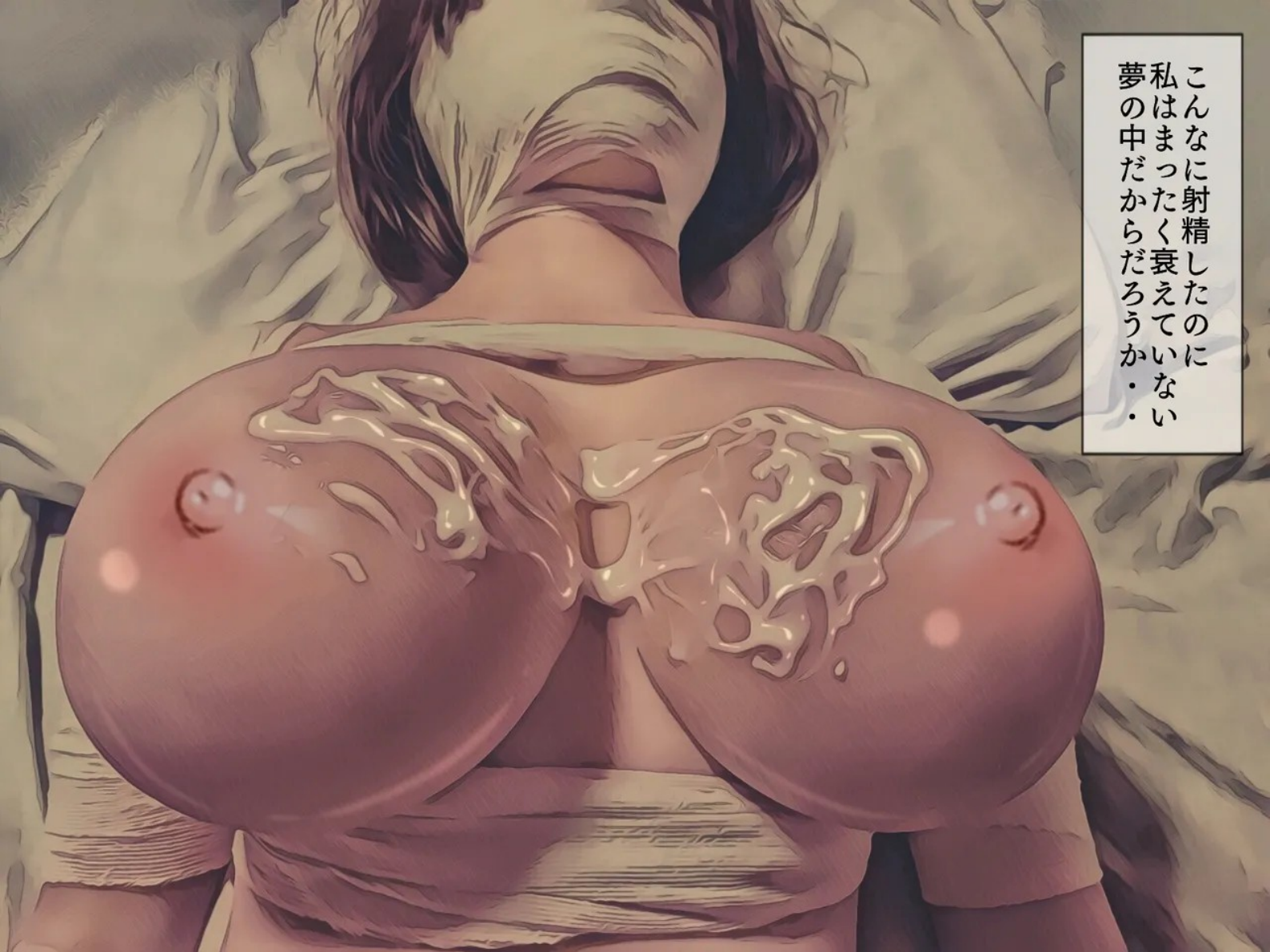
「うっ！・・・」
ドビュッ・・・
熱いものが
こみあげ、
私はそのまま
女性の胸の中
に
射精した・・・

頭が真っ白に
なるような快感が
全身をつたう・
と、同時に女性の胸は
私の精液で
ドロドロになっていた



「ドロッ・・・」
もの凄い量の精液が
女性の胸をつたう・・





こんな射精したのに
私はまったく衰えていない
夢の中だからだろうか・

私は興奮が
抑えられず、
そのまま
ためらうことなく
女性の膣に
挿入した



「ニユプ・」
その感触は夢で
あるにもかかわらず
本物同様・・・最高の
感覚だった・・・



ああ凄い・
温かく、絡みついて
私は腰を振りながら
豊富な胸を揉む・



ハアハア・・・
私は今、
夢の中で
女性とセックス
をしている・・・





この感触も
快感も
本物そっくりだ
たまらない・
私の腰に
どんどん力が
入っていく・



ドクッドクッと
中に私の精液が
流し込まれていく


「ドビュウウッ」
うっ・うっ・うっ
二度目の射精が
女性の膈内に
放たれた・
・



「ヌル・」
ゆっくりペニスを
引き抜くと
ドロリと精液が
あふれ出た・



これだけ射精したのに
私の性欲はまだ
衰えない・
いや、むしろより
燃え上がったと
いうべきだろうか・



私女性を
ひっくり返し

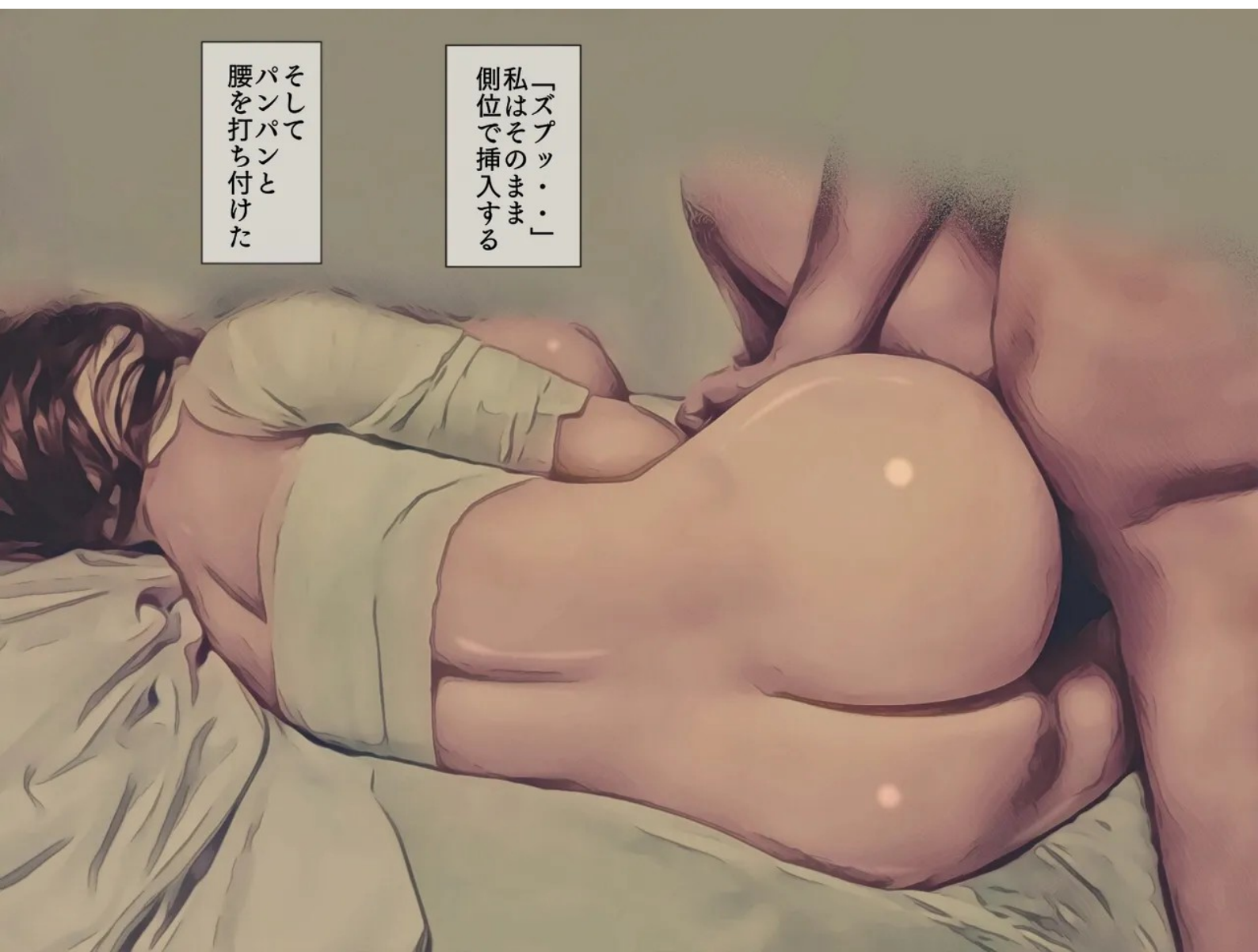
今度はその
豊かな尻を
揉み始めた



その尻は
柔らかく
いまでも
揉んでい
たい
弾力だ
たい

「ズブツ・・」
私はそのまま
側位で挿入する

そして
パンパンと
腰を打ち付けた



プルンプルンと
尻が揺れる感触が
伝わってくる・

その快感に
私の腰にも
より一層力が
入る・



パンパンするたび
大きな胸尻が
ブルブルと
揺れる・



「くっ・くっ・くっ」
「ビュル・ビュル」
その淫らな様に
私はたまらず
射精してしまった



私は急いで
ペニスを引き抜き
女性の尻に
精液をかける・
・



その精液の
滴る尻を眺めて
いると
私はさらに興奮を
掻き立てられ
ペニスがふたたび
脈打ち始めた



そして気が付けば
私はバックで女性を
激しく犯していた



激しく腰を
打ち付けると
尻がブルブルと
波打ちはじける



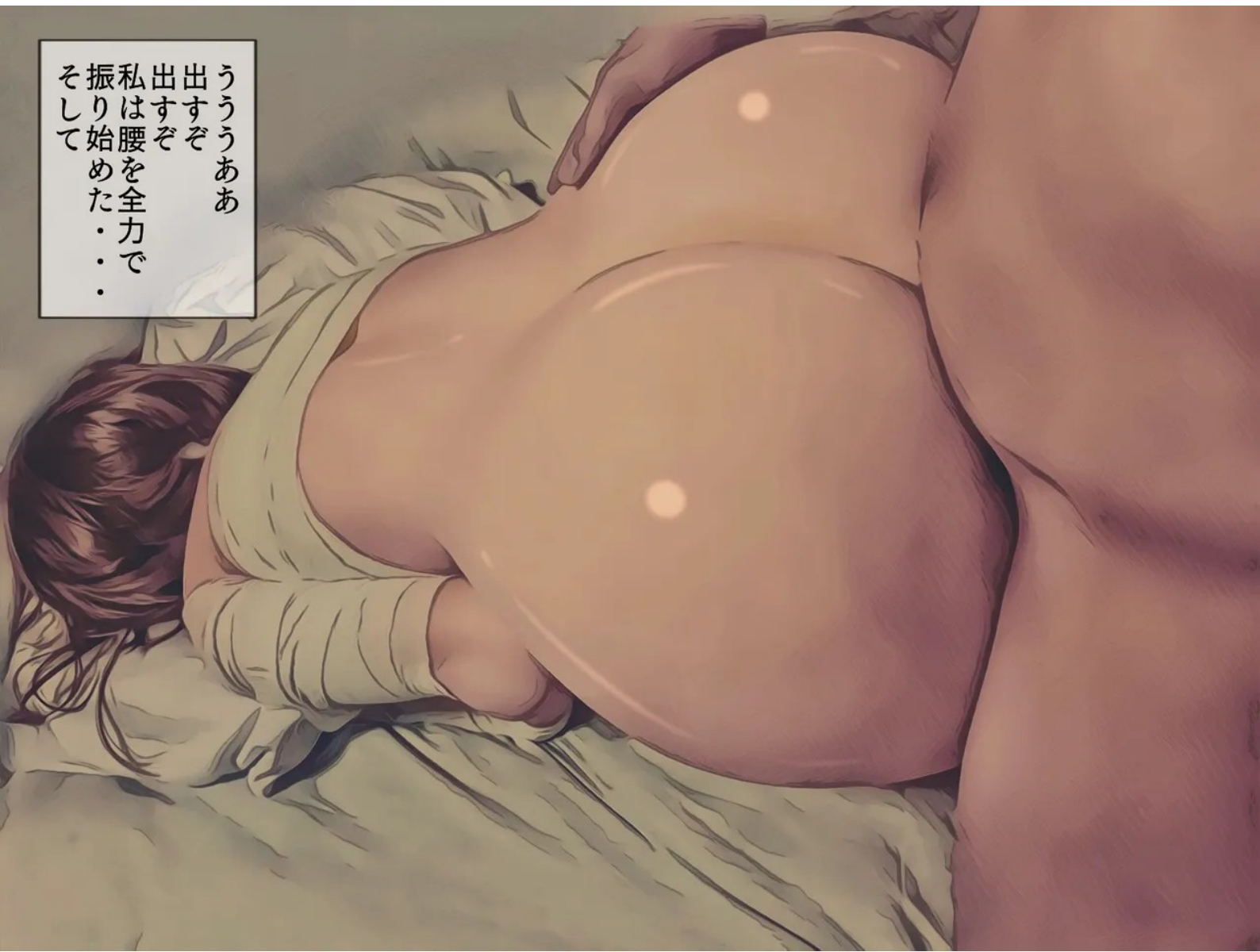
私はケダモノと
化していた
この女性の
身体を犯すこと
以外、もはや頭
なかつた



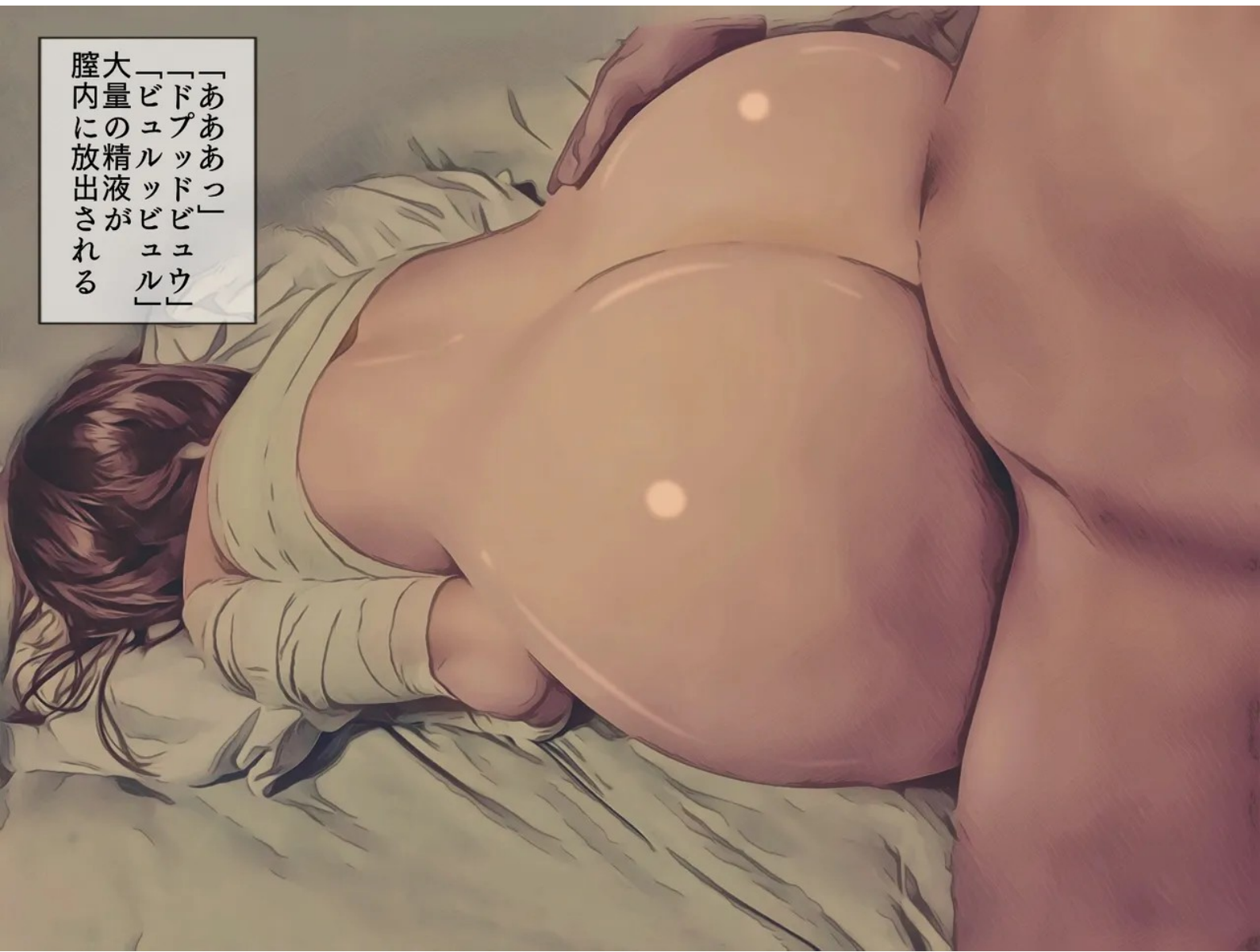
この女性はいままでの
私の責めに一切抵抗する
ことはなくただ受け止めて
続けている

これは私の夢の中ゆえの
すべてが私のように
都合のいいように
動いていないにかつた
他ならなかった






うううああ
出すぞ
出すぞ
私は腰を全力で
振り始めた・・・
そして



「あああっ」
「ドプッドビュウ」
「ビュルッビュル」
大量の精液が
膈内に放出される



「ドロツ・・」
私は精液を膣内
のみならず、尻にも
思い切りかけた・
・

はあ・はあ・はあ・はあ・
ど、どうなっているんだ
夢だからだろうか・
いくら射精しても
おさまらない

興奮が
一向に
鎮まら
なくて
くれない
・
・



私はその後も
この女性を
犯し続けたい
何度も
休むことなく
.

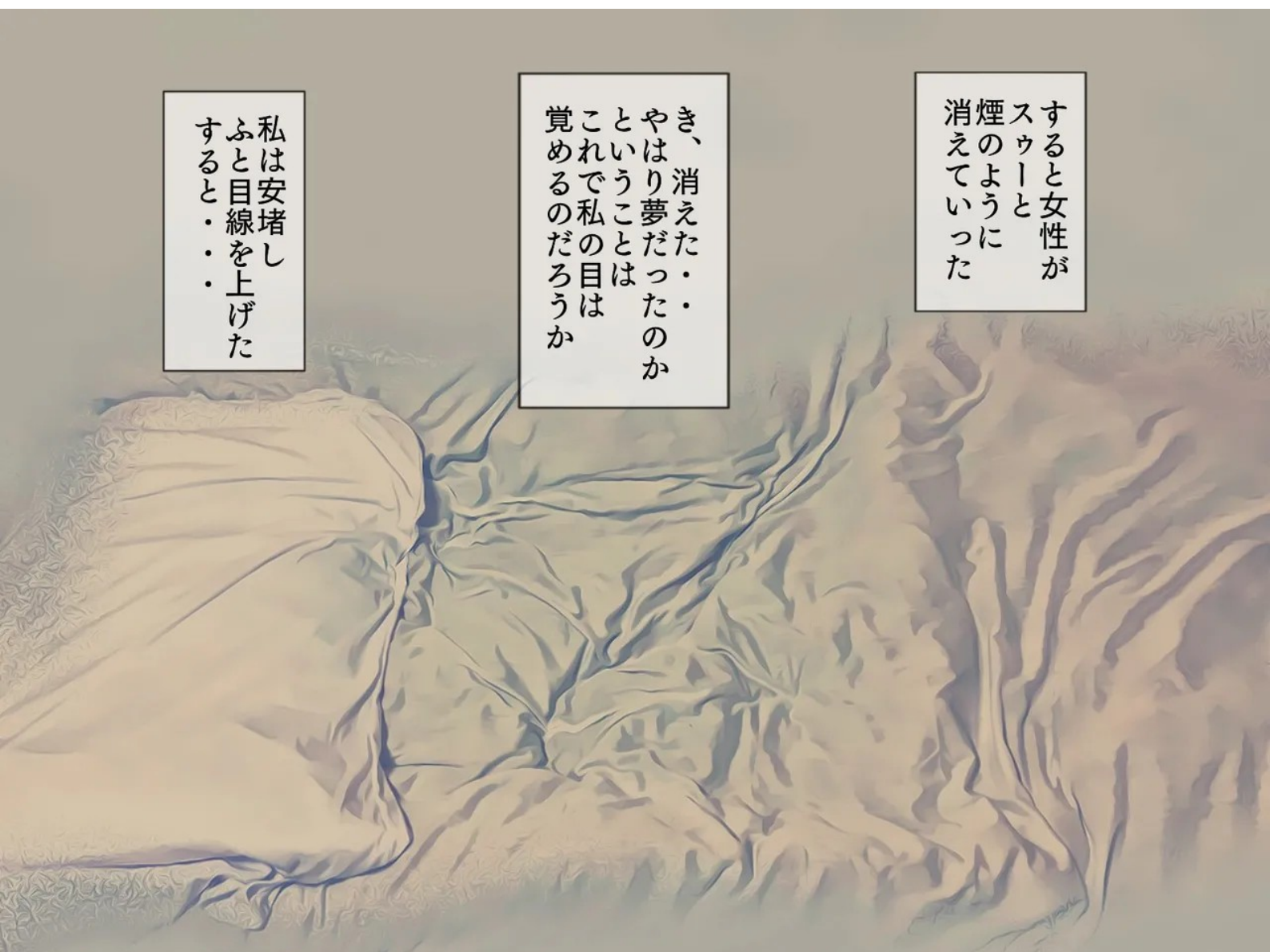


やっと・・・
やっと・・・
おさまった・・・

私は性欲を
発散し尽くし
その場にへたり込む

女性はもう
私の精液で
全身ドロドロに
なっている・・・






すると女性が
スウーと
煙のように
消えていった

き、消えた・
やはり夢だったのか
ということとは
これで私の目は
覚めるのだろうか

私は安堵し
ふと視線を上げた
すると・・・

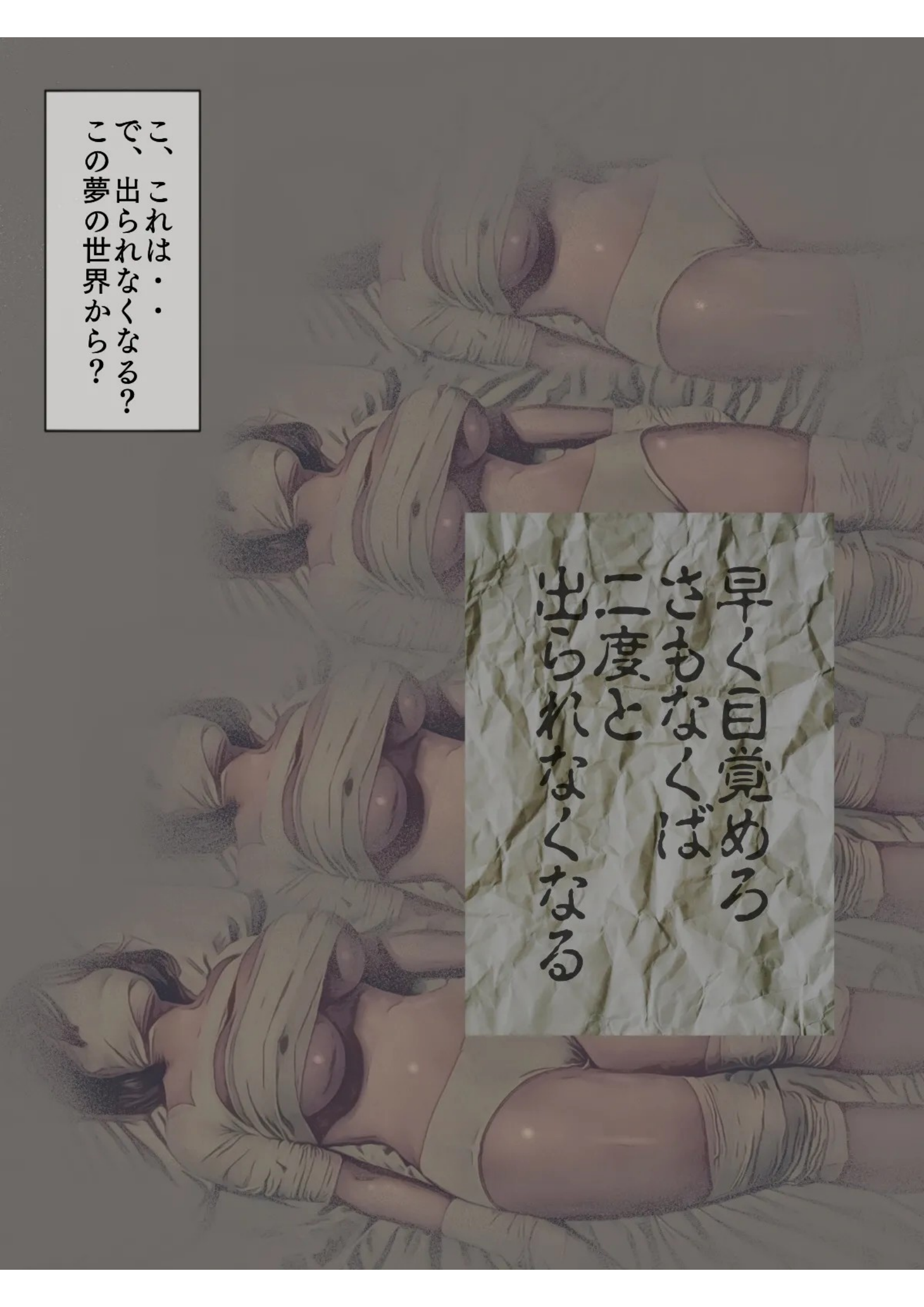
なっ！？こ、これは
目線の先には
先ほどの女性と
全く同じ女性が
何人も居る光景が
映った・
・
・





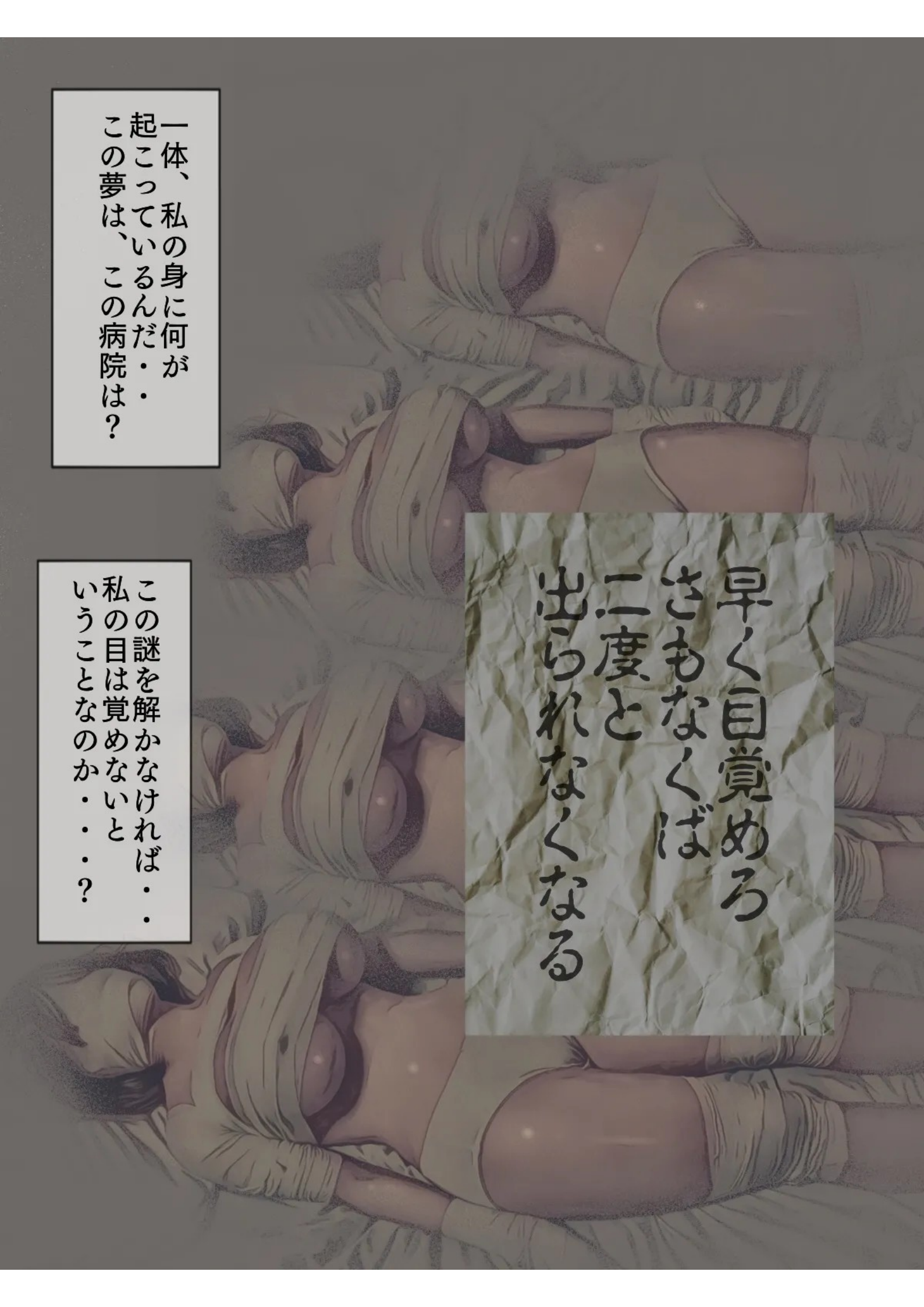
い、一体
どうゆうことだ・
これで終わりで
なかつたのか？

すると、私の
足元に先ほどの
とは違うメモ書きが
あるのに気づいた



こ、これは・・
で、出られなくなる？
この夢の世界から？

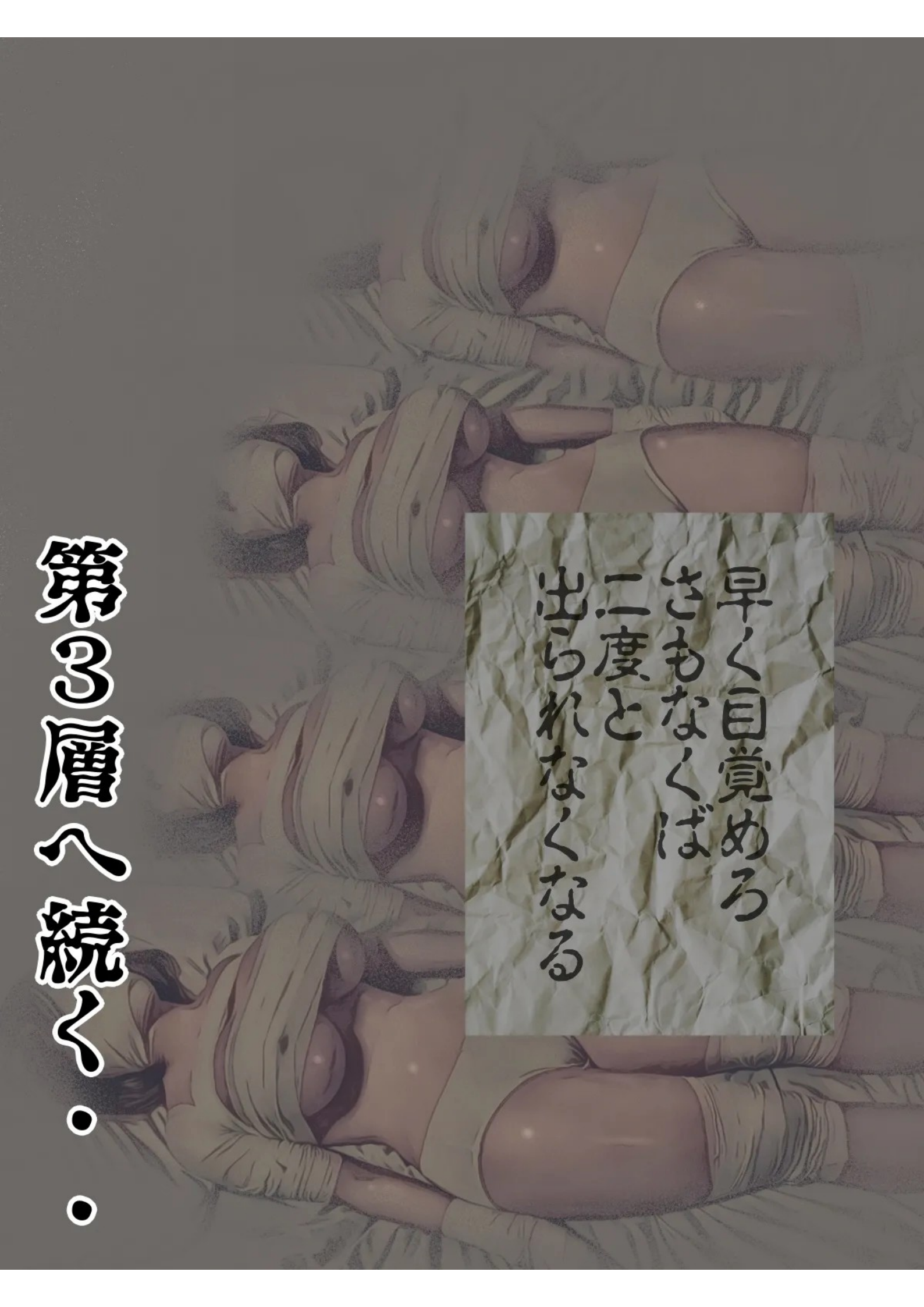
早く目覚めろ
さもなければ
二度と
出られなくなる



一体、私の身に何が
起こっているんだ・
この夢は、この病院は？

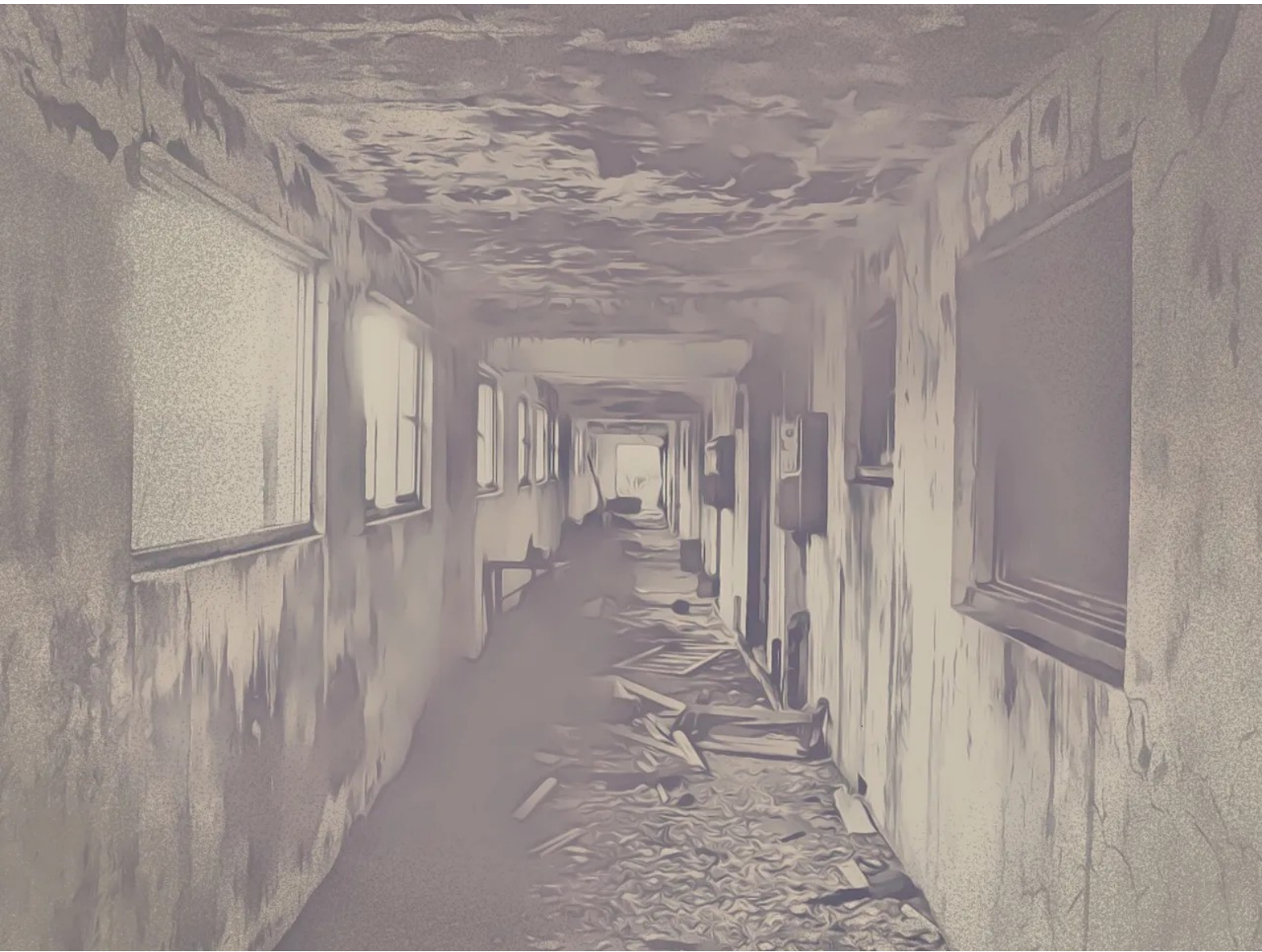
この謎を解かなければ・
私の目は覚めないか・
いうことなのか・・・？

早く目覚めろ
さもなければ
二度と
出られなくなる



早く目覚めろ
さもなければ
二度と
出られなくなる

第3層へ続く...





これは夢だ
早く目覚めろ





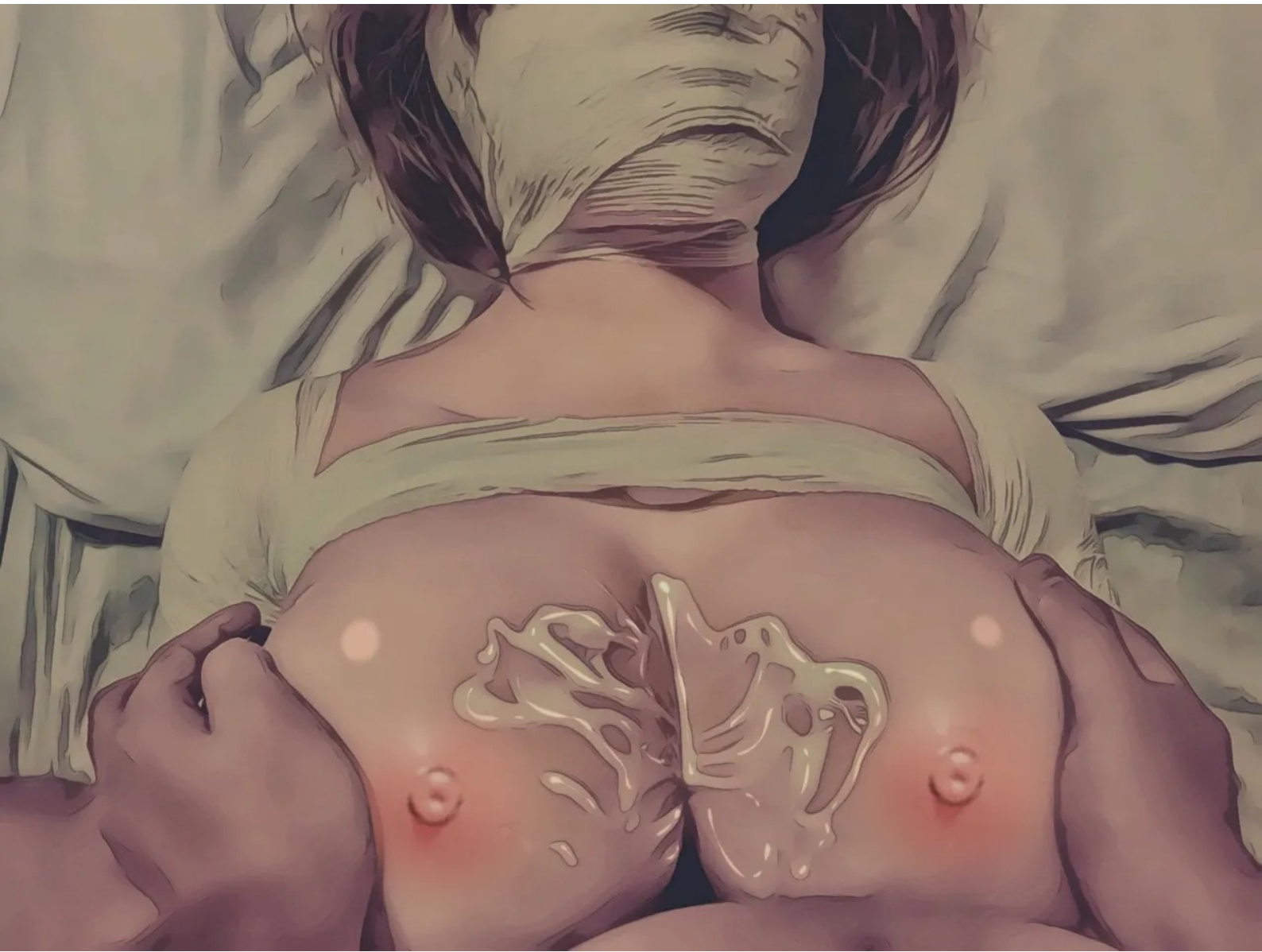




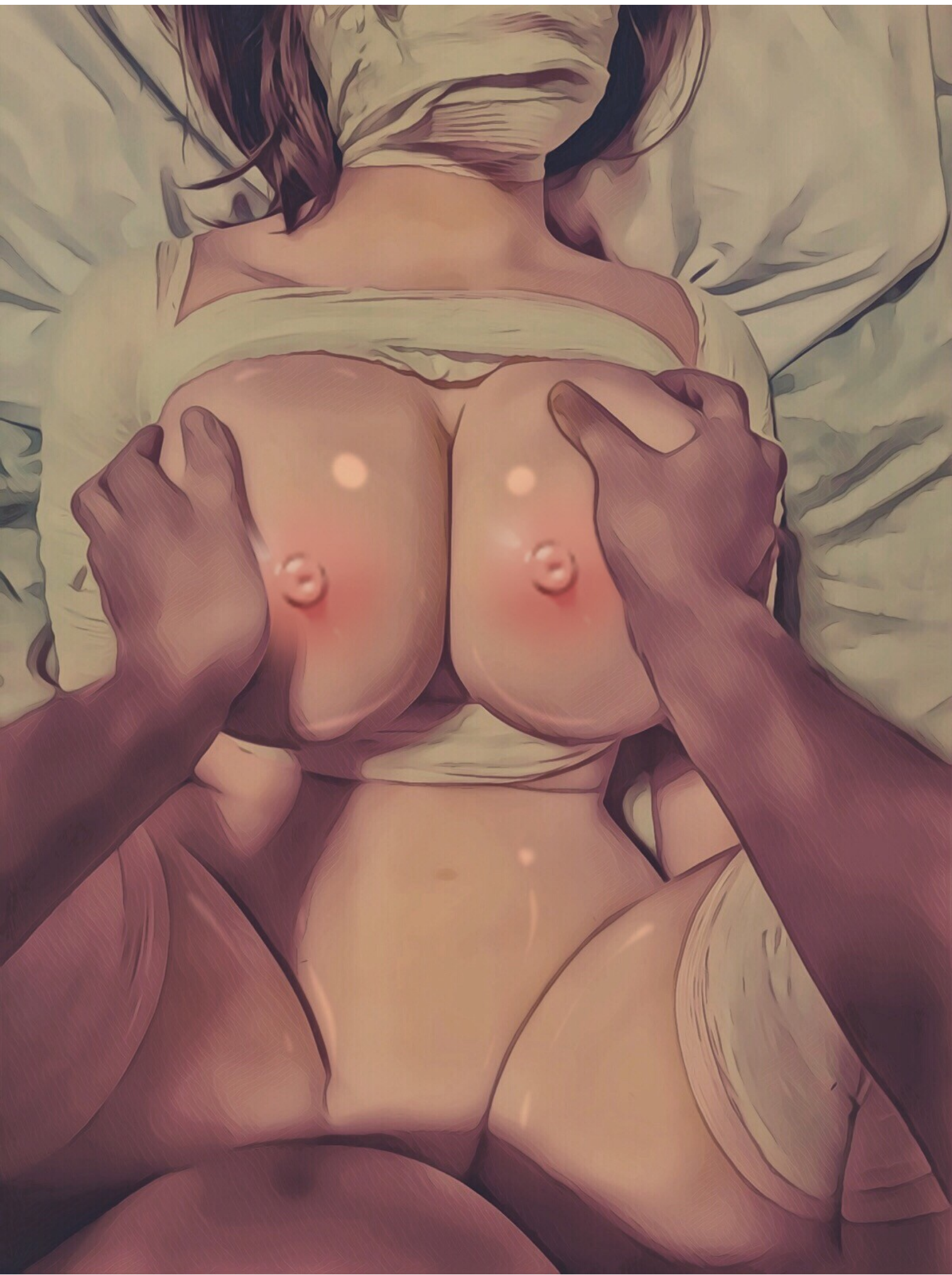
























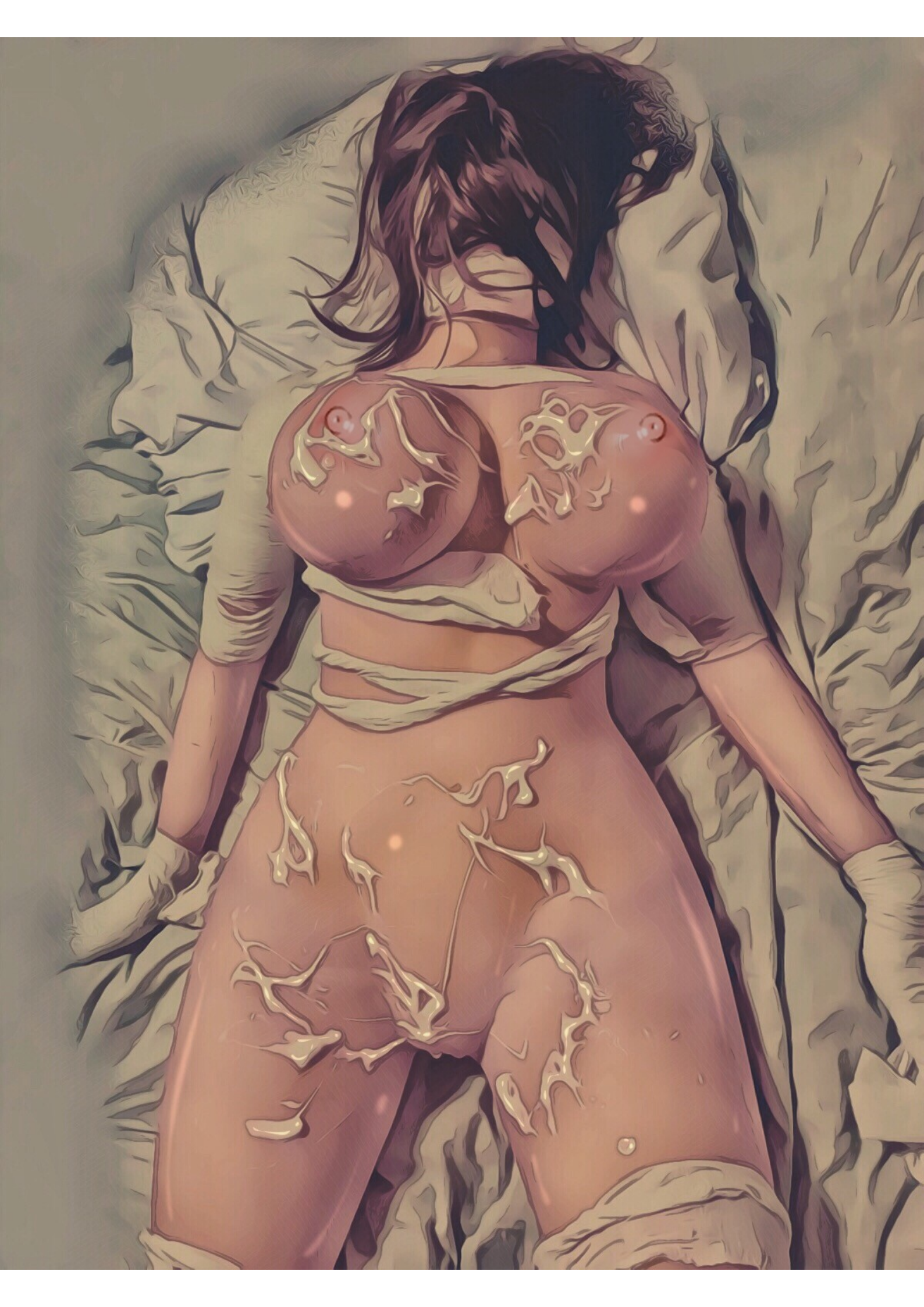








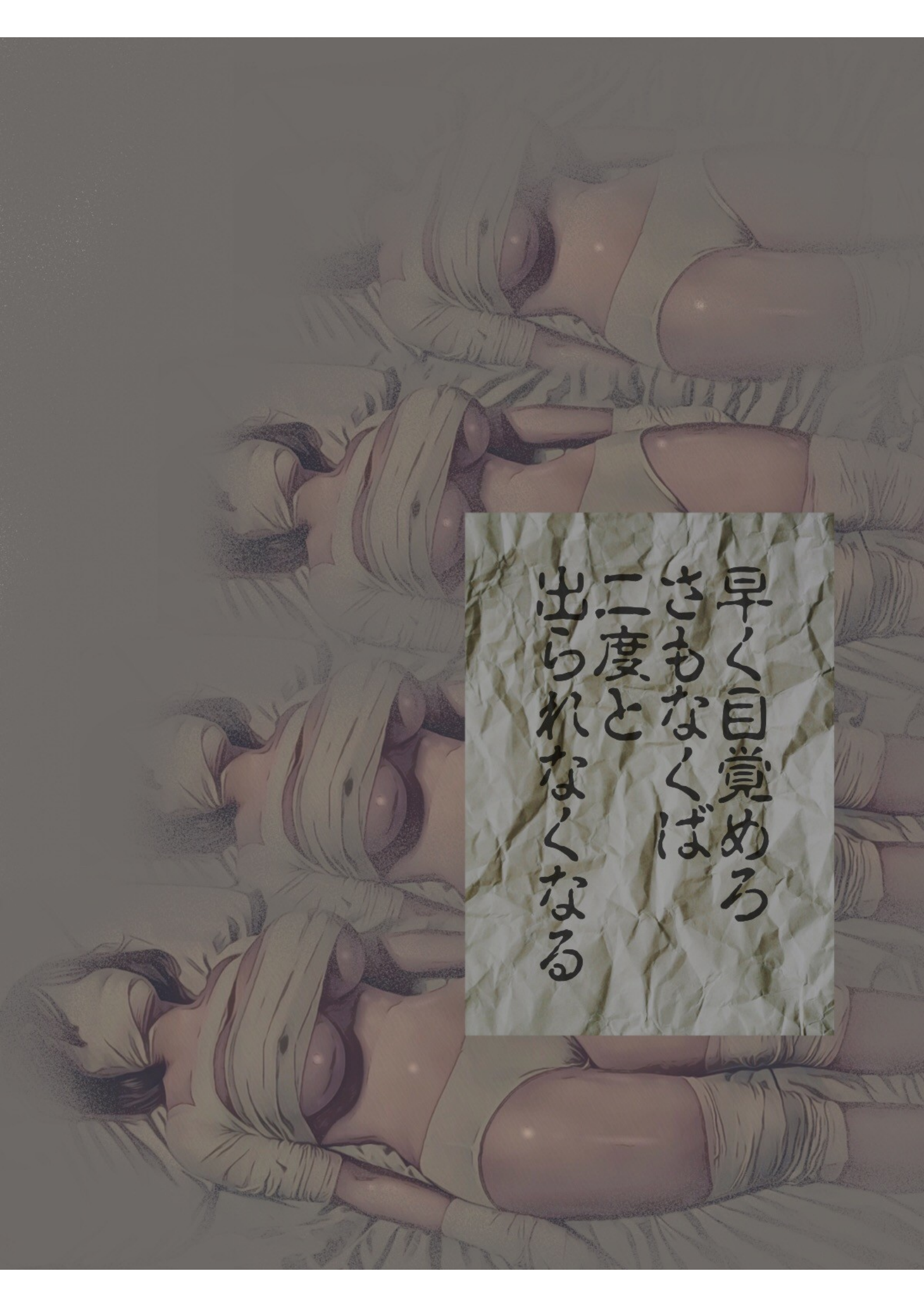












早く目覚めろ
さもなくなれば
二度と
出られなくなる